



女性特有の影響も…

—女性と喫煙—

企画：
日本医師会

No. 286

指導：草加市立病院 副院長 安水 洸彦

増えている若い女性の喫煙率

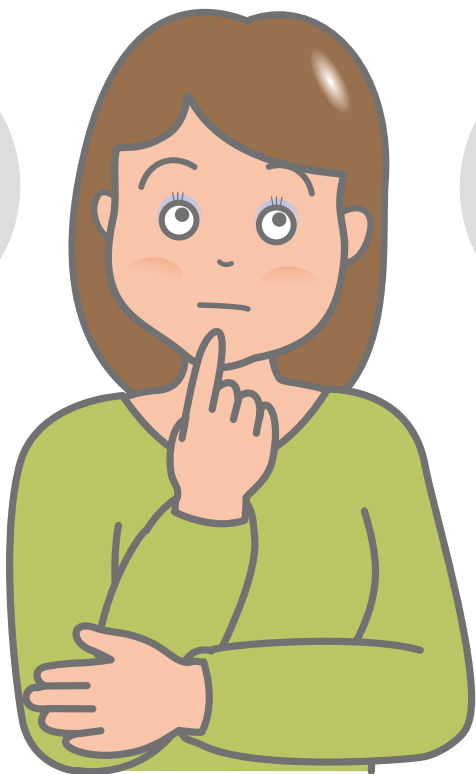
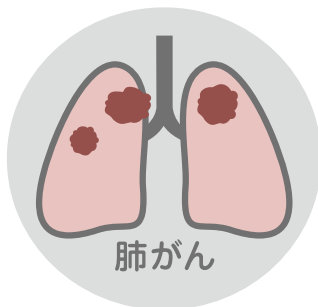
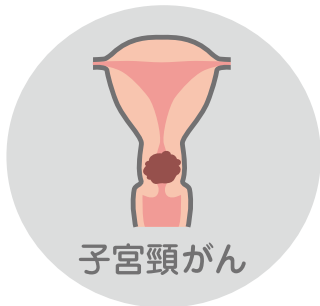
日本人男性の喫煙率は、年々減ってきています。しかし、女性の喫煙率は、わずかながら増加の傾向にあります。とくに妊娠・出産に関係する世代である20歳代が16.7%、30歳代が17.2%（2007年厚労省調べ）と高いのが心配です。

女性にはこれだけの影響が…

喫煙の女性特有の悪影響としては、女性ホルモンの分泌を抑えることにより、骨粗鬆症こつそしょうしょうの危険が増え、閉経が早まり、不妊の頻度も高まることが挙げられます。さらに、免疫力が抑制されることにより、子宮頸がんなどの悪性腫瘍けいが起りやすくなります。

また、妊娠中の常習的喫煙は、流産や早産、胎児発育障害の頻度を高め、「胎盤循環不全」や「胎盤早期剝離はくり」など母と子の生命をおびやかす病気が発生するリスクも高まります。最近では、喫煙者の母親から生まれた子が学童期になると、行動・学習障害に陥りやすくなることもわかってきました。

もちろん男女を問わず、肺がんや各種のがん、狭心症、心筋梗塞こうそく、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、消化器疾患などにかかりやすくなることは周知のことです。



さあ、禁煙を

たばこの煙には明らかな有害物質であるニコチンと一酸化炭素のほかにも、さまざまな発がん物質や発がん促進物質が含まれています。また、たばこを吸う量と期間に応じて健康への危険性はますます高まります。喫煙は習慣性があるので、禁煙は決意だけでは難しいこともあります。具体的な方法は、かかりつけの医師にご相談ください。

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。